

都市ガス小売全面自由化が促す競争と提携

橋本裕、國松洋介、細川元*

サマリー

2017年4月1日における都市ガス小売事業の全面自由化を契機としたガス市場の競争は着実に進んでいる。異業種から新規参入が進むことで、スイッチング（供給者変更）の件数も2018年5月末時点で100万件を突破した。こうした都市ガス小売全面自由化の進展は、消費者に多様な供給者のオプションやサービスの向上という恩恵をもたらしており、最終的には、ガス料金の低減という効果も期待される。

2016年から始まった電力・ガスシステム改革を機に、日本のエネルギー事業者は現在、生き残りをかけて前例のない競争の時代に突入しており、地域・業界の垣根を越えた新たな提携のあり方を模索している。こうした新しい提携のあり方は、各バリューチェーンや対象となる市場において、その都度自社の利益最大化を図るためのパートナーを選択するという意味で、これまでのような各地域内での垂直統合型のビジネスモデルとは大きく異なる性質を持っている。

都市ガス小売全面自由化は、事業者間の競争を通じて消費者に大きな恩恵をもたらす。しかし、都市ガス小売全面自由化の進展が、ガス会社の使命であるガスの安定供給に支障を及ぼすようなことがあってはならない。今後、都市ガス小売全面自由化が、引き続き安定供給を堅持しながら、より良い制度として運用されていくことが期待される。

* 化石エネルギー・国際協力ユニット ガスグループ